

福山市子ども読書活動推進計画 (第二次)



福山市ばらのイメージキャラクター
「ローラ」

子どものそばにいつも本を

2016年(平成28年)11月

福 山 市
福 山 市 教 育 委 員 会

目 次

第1章 計画の策定に当たって

- 1 計画策定の背景と趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 子どもの読書の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 国及び広島県の動き・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第2章 第一次計画の成果と課題

- 1 家庭における子どもの読書活動の推進・・・・・・・・・・ 9
- 2 地域における子どもの読書活動の推進
 - (1) 図書館における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - (2) 公民館等における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 3 学校等における子どもの読書活動の推進
 - (1) 保育所（園）・幼稚園等における取組・・・・・・・・・・ 16
 - (2) 学校における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

第3章 第二次計画の策定

- 1 基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 2 施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 3 計画の柱立てと取組内容
 - (1) 家庭における子どもの読書活動の推進・・・・・・・・・・ 21
 - (2) 地域における子どもの読書活動の推進
 - ①図書館における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
 - ②公民館等における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
 - (3) 学校等における子どもの読書活動の推進
 - ①保育所（園）・幼稚園・認定こども園等における取組・・・・・・・・・・ 29
 - ②学校等における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
 - (4) 関係機関の連携・協力の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

第1章 計画の策定に当たって

1 計画策定の背景と趣旨

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、変化の激しい社会をたくましく生きる力を身に付けていくうえで重要なものです。

しかし、子どもの生活環境の変化や、乳幼児期からの読書習慣が形成されていないことなどによる「読書離れ・活字離れ」が指摘されており、特に学年が進むにつれて顕著になる傾向があるなど、子どもの読書環境は大きく変化しています。

本市では、子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するために、2010年(平成22年)10月に「福山市子ども読書活動推進計画(第一次)」(以下「第一次計画」という。)を策定し、子どもの読書環境の整備に努めてきました。

近年、スマートフォンやタブレット端末等の情報通信機器の急速な発達・普及により情報が氾濫する中、正しい判断力で情報を選択できる力が必要になってきています。

読書を通じて読解力や想像力、思考力、表現力等を養うとともに、書籍や新聞、図鑑などの資料を読み進めることで、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、さらなる知的探究心や真理を求める習慣を身に付けることが大切です。

このたび、第一次計画の成果と課題を検証するとともに、子どもをとりまく環境の変化を踏まえ、すべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができる環境の整備を目的として、「福山市子ども読書活動推進計画(第二次)」を策定し、子どもの読書活動を総合的・計画的に推進します。



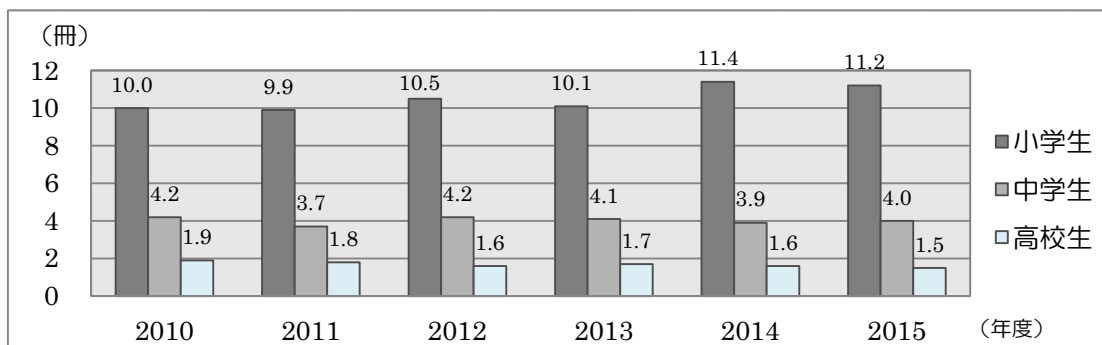
2 子どもの読書の現状

(1) 全国の状況

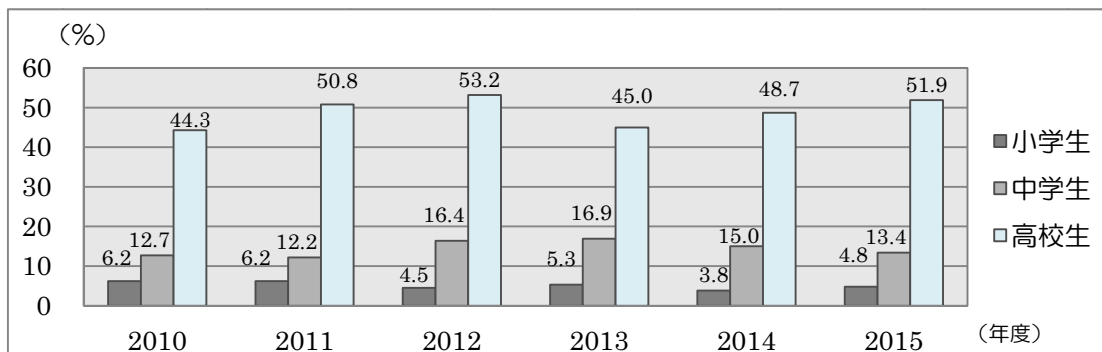
「第61回学校読書調査」（公益社団法人全国学校図書館協議会 2015年度（平成27年度）報告）によると、小学生の1か月間の平均読書冊数については、2010年（平成22年）と比較して、やや増加していますが、中学生・高校生については、ほぼ横ばいとなっています。また、1か月に1冊も本を読まない小学生の割合は、やや減少していますが、中学生と高校生の割合は、それぞれ増加しています。

全国各地のさまざまな取組により、小学生の読書活動については改善されつつあると思われますが、中学生から高校生へと学年が進むにつれて本を読まなくなっており、「読書離れ・活字離れ」の傾向が改善されていない状況です。

◇1か月の平均読書冊数（全国）



◇1か月に1冊も本を読まない児童・生徒の割合（全国）



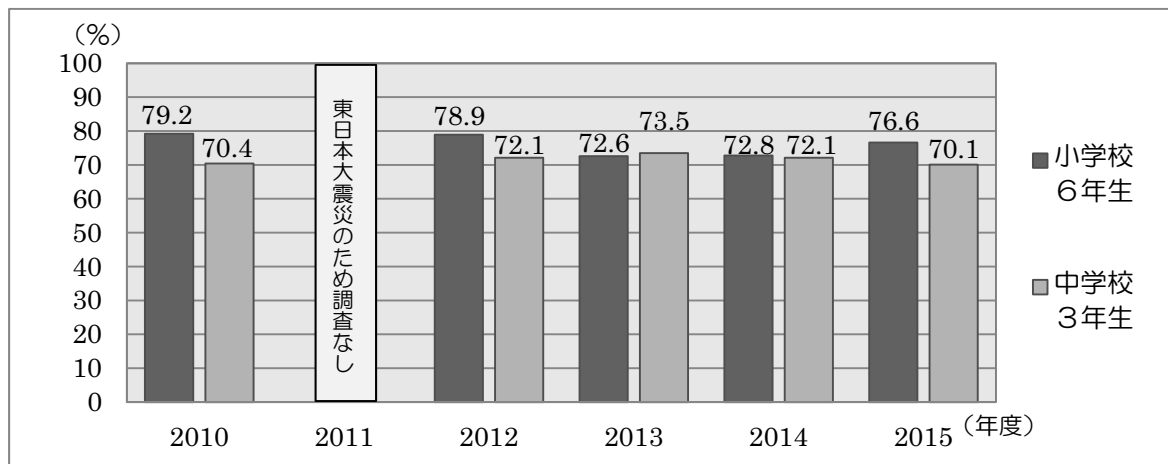
出典：学校読書調査（全国学校図書館協議会・毎日新聞社実施）

(2) 福山市の状況

2015年（平成27年）に文部科学省が実施した「全国学力・学習状況調査」によると、福山市立学校において、「読書が好き」と回答した児童・生徒の割合は、小学校6年生76.6%、中学校3年生70.1%でした。

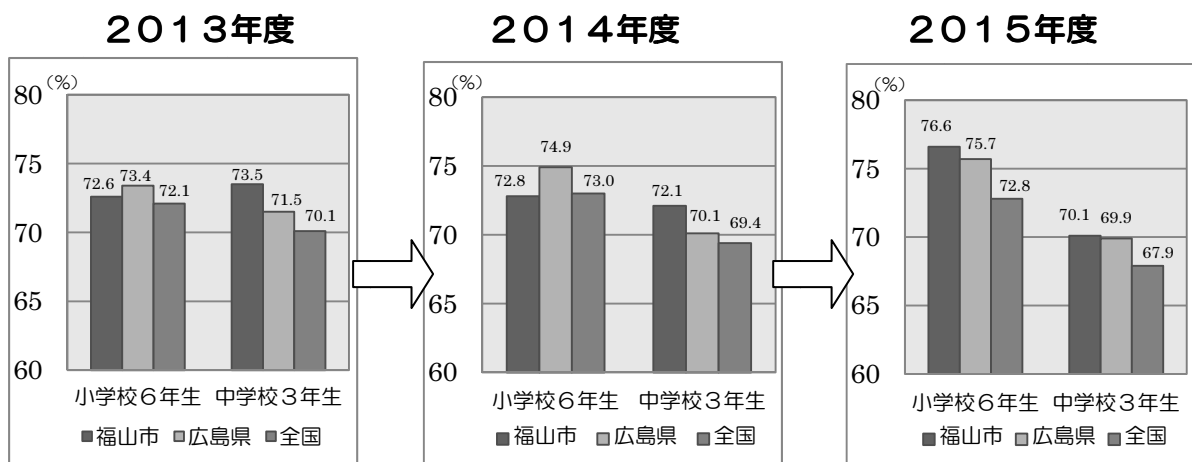
これは、広島県平均や全国平均と比較して高い数値となっており、小学校6年生においては前年度の割合を上回りましたが、中学校3年生については、前年度の割合を下回っています。

◇「読書が好き」と回答した児童・生徒の割合（福山市）



出典：全国学力・学習状況調査（文部科学省実施）（公立小中学校）
2010年度と2012年度については、抽出により調査を実施
2013年度以降は全校調査

◇「読書が好き」と回答した児童・生徒の割合（広島県及び全国との比較）

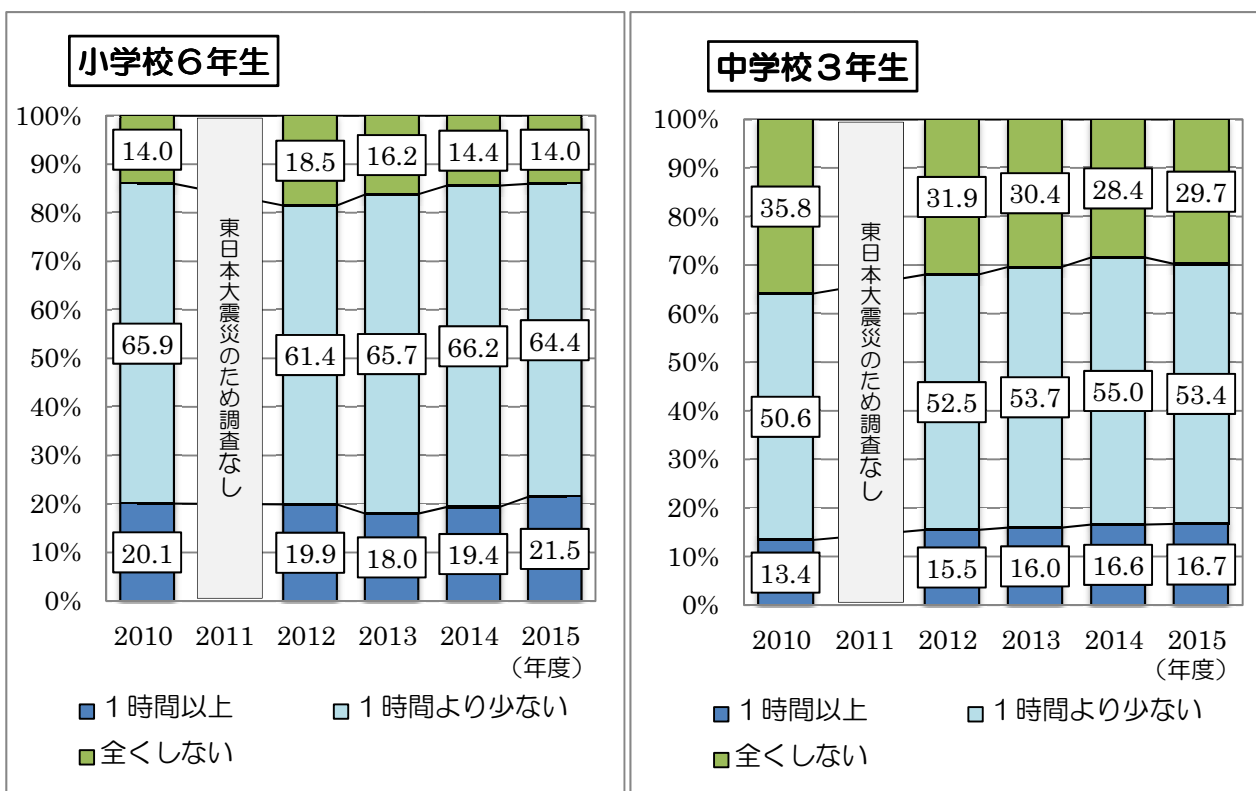


出典：全国学力・学習状況調査（文部科学省実施）（公立小中学校）

また、普段（月～金曜日）の読書時間についての調査では、福山市立学校において、「1日当たり1時間以上読書をする」と回答した児童・生徒の割合が、小学校6年生は21.5%、中学校3年生は16.7%でした。

これは、広島県平均や全国平均と比較して高い数値となっており、小学生においては前年度を上回りましたが、中学校3年生ではほぼ横ばいとなっています。

◇普段（月～金曜日）1日当たりの読書時間（福山市）



出典：全国学力・学習状況調査（文部科学省実施）（公立小中学校）
 2010年度と2012年度については、抽出により調査を実施
 2013年度以降は全校調査

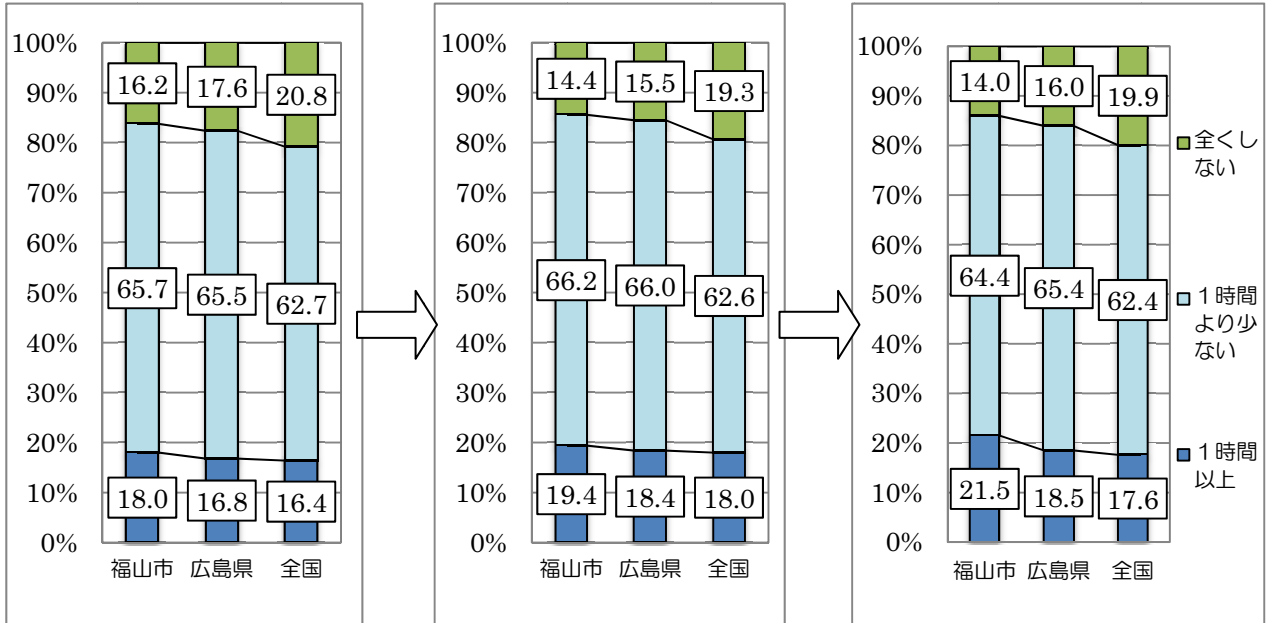
◇普段（月～金曜日）1日当たりの読書時間（広島県及び全国との比較）

小学校6年生

2013年度

2014年度

2015年度

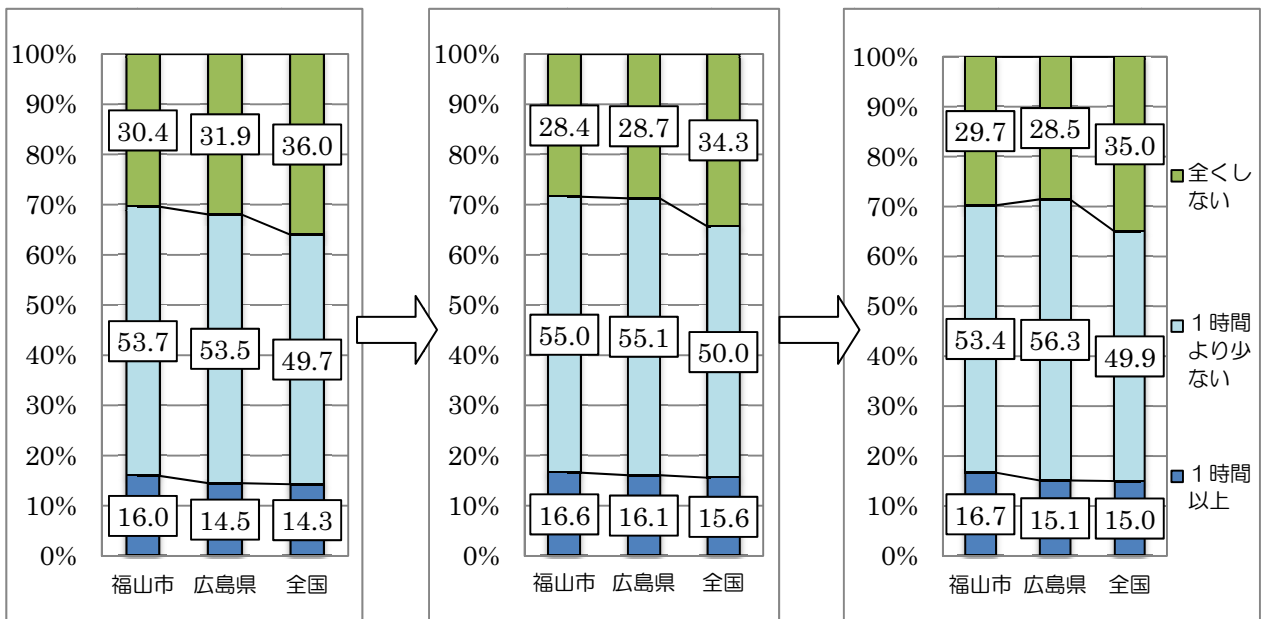


中学校3年生

2013年度

2014年度

2015年度



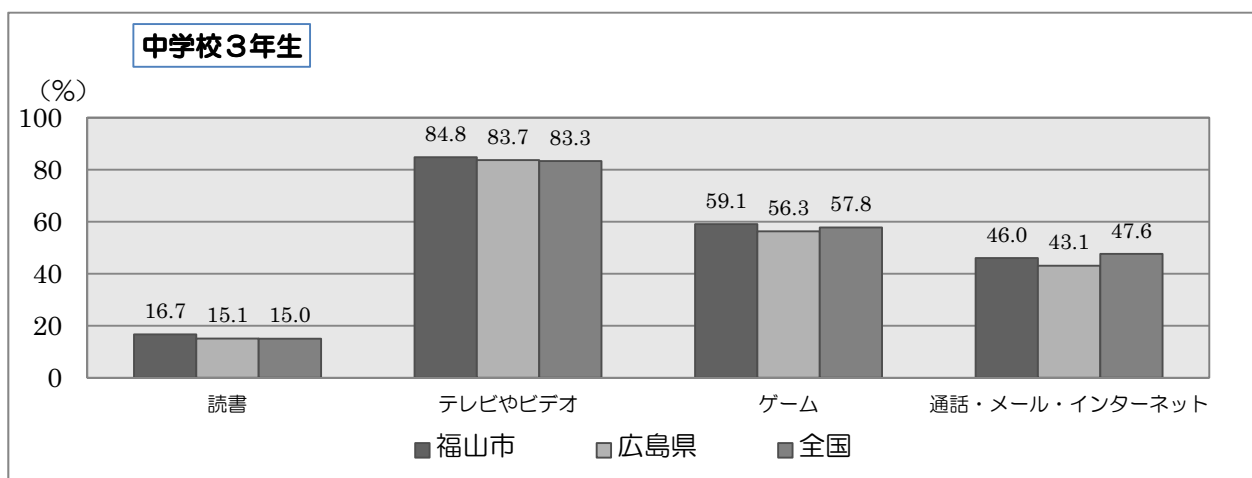
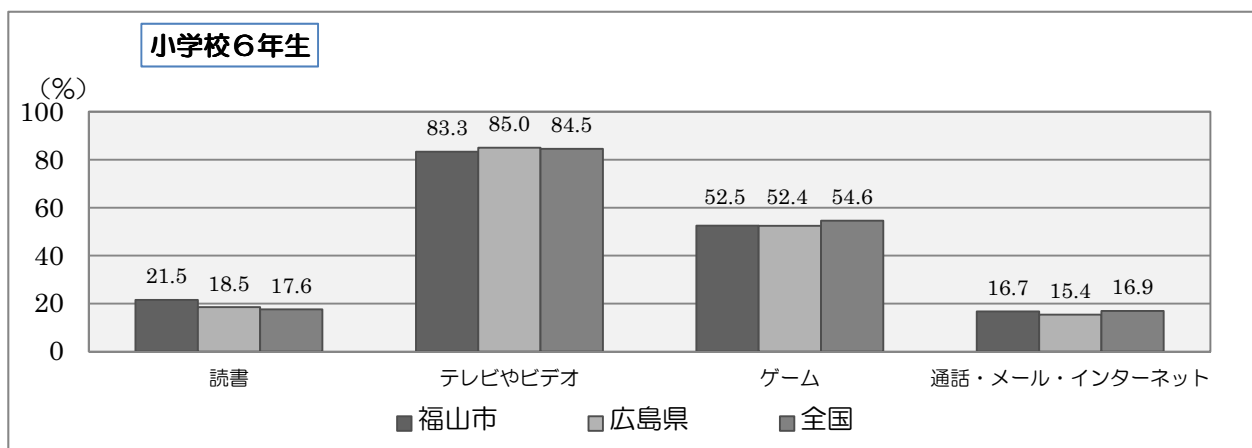
出典：全国学力・学習状況調査（文部科学省実施）（公立小中学校）

普段（月～金曜日）の過ごし方についての調査では、勉強以外にテレビを見たりゲームなどをしたり、学年が進むにつれて携帯電話やスマートフォンを使ってメールやインターネットをする時間が増える一方で読書時間が短くなっており、読書習慣が十分に形成されていない状況にあります。

これらの調査結果から、本市における読書活動の推進の取組は一定の成果を得ているところですが、全国の状況と同様に、学年が進むにつれて「読書離れ・活字離れ」となる傾向が改善されておらず、引き続き、課題の解決に向けた取組が必要です。

◇学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）の過ごし方（広島県及び全国との比較）

読書、テレビやビデオの視聴、ゲーム、通話・メール・インターネットを「1時間以上する」と答えた児童・生徒の割合（2015年度）



出典：全国学力・学習状況調査（文部科学省実施）（公立小中学校）

3 国及び広島県の動き

(1) 国の動き

国においては、読書の重要性に鑑み、子どもの読書活動を支援するため、2000年（平成12年）を「子ども読書年」と定め、2001年（平成13年）には「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定しました。この法律では子どもの読書活動に関して基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要事項を定めることにより、総合的かつ計画的に施策を推進することにしました。

さらに2002年（平成14年）には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第一次基本計画）を策定して、5年間にわたる施策の基本的方針と具体的方策を示しました。

その後、計画期間の終了に伴い、引き続き2008年（平成20年）に第二次基本計画、2013年（平成25年）に第三次基本計画を策定しました。

また、第一次基本計画策定後、2005年（平成17年）には、知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現に寄与することを目的として「文字・活字文化振興法」が制定されたほか、2006年（平成18年）に「教育基本法」の改正、2007年（平成19年）に「学校教育法」の改正、2008年（平成20年）に「図書館法」の改正、2014年（平成26年）に「学校図書館法」の改正が行われるなど、子どもの読書活動の推進を図るための法整備が進められてきました。

第二次基本計画期間中の成果としては、図書館の児童への貸出冊数の増加や図書館での読み聞かせなどのボランティア活動を行う者の増加、全校一斉での読書活動（朝読書など）を行う学校の割合の増加などが挙げられています。一方、課題として、学年が進むにつれて不読率が増加していることなどが挙げられています。

このような成果や課題、諸情勢の変化等を検証したうえで、第三次基本計画では、国及び地方公共団体は次の取組を通じ、子どもの自主的な読書活動の重要性を踏まえて、その推進を図ることとしています。

「(第三次) 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」基本方針

- 1 家庭，地域，学校を通じた社会全体における取組
 - ・家庭，地域，学校が担うべき役割の明確化
 - ・国，地方公共団体，民間団体等が連携を図りながら子どもたちが読書に親しむ機会を提供
- 2 子どもの読書活動を支える環境の整備
 - ・読書環境の地域格差の改善
 - ・読書に親しむ機会の提供，施設・設備の整備
- 3 子どもの読書活動に関する意義の普及
 - ・読書活動の意義の普及に努め，社会的機運の醸成を図る

(2) 広島県の動き

広島県においては，国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」の制定や「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の策定を受けて，広島県の教育方針をふまえる中で，2003年（平成15年）に「広島県子どもの読書活動推進計画—ことばの力を育てる読書活動をめざして—」（第一次計画）を策定し，さまざまな事業を展開するとともに，計画期間の終了に伴い，その成果と課題を整理し，2009年（平成21年）に第二次計画，2014年（平成26年）に第三次計画を策定しました。

第三次計画では，「目指す姿」として，「自ら学び，自ら考え，主体的に判断する子供」，「自ら問題を発見し，よりよく問題を解決しようとする子供」の2つが掲げられており，4つの柱「本に親しむ⇒本を読むきっかけの提供」，「たくさん読む⇒本を読むことの習慣化」，「目的に応じて読む⇒本を読む力の育成」，「本から学び自らの考えを深める⇒本を読んで生き方を考える機会の充実」に沿って，具体的な取組を実施しています。

第2章 第一次計画の成果と課題

1 家庭における子どもの読書活動の推進

【取組内容】

- 保護者等に向けた啓発リーフレットや推薦図書リストなどの充実
- 子どもの本に関する講座やおはなし会の充実
- 家庭での読書のすすめ

【取組状況】

- 保護者等に、読書の重要性を認識し知識を深めてもらうとともに、図書館の利用を促すリーフレットやおすすめの図書リストを作成・配布しました。
- 子どもの読書推進関係の情報を盛り込んだ「あんしん子育て応援ガイド」を毎年作成し、妊産婦や子育て中の家庭へ情報を提供しています。
- 子どもの発達段階に応じ、保護者に読書の重要性を伝える講座やおはなし会を実施しました。
 - ・図書館において、「あかちゃんといっしょのおはなし会」を実施
第一次計画期間中に毎月2回実施し、合計10,039人が参加
 - ・乳幼児健康相談の時間を利用して「絵本と出会うふれあい事業（注1）」を実施
第一次計画期間中に、合計4,274組が参加
- 生後4か月までの乳児のいる家庭を対象に子育て支援ボランティアや保健師などが訪問する「こんにちは赤ちゃん訪問事業（注2）」において、図書館からのおすすめ絵本を紹介した小冊子「あかちゃん・えほん・だいすき」を、第一次計画期間中に、合計20,180人に配布しました。

注1 絵本と出会うふれあい事業：乳幼児健康相談の時間を利用して、図書館司書が赤ちゃんとは絵本の出会いの大切さを話し、絵本の紹介や楽しむポイントを伝える事業

注2 こんにちは赤ちゃん訪問事業：生後4か月までの乳児のいる家庭を対象に、子育て支援ボランティアや保健師などが訪問し、不安や悩みを聞き子育て支援に関する情報提供を行う事業

【成果】

家庭における読書活動を推進するために関係部署が連携し、絵本の読み聞かせや図書リストの作成・配布などを実施し、家庭での読書の大切さや意義について保護者等に対し普及活動に努め、子どもの読書支援を推進しました。図書館において絵本の選び方や読み聞かせ方について質問する保護者が増えており、絵本への関心は高まっています。

【課題】

子どもの読書活動を成長とともに習慣付けていくためには、乳幼児期から発達段階に応じて子どもの読書に対する興味や関心を引き出すような工夫や働き掛けが必要です。今後も関係部署が連携し、本に親しむ機会の提供や保護者等への継続的な啓発とともに、子どもがテレビやゲームから離れ、読書に対する興味や関心を高めるための情報提供や広報活動のさらなる工夫が必要です。



小冊子「あかちゃん・えほん・だいすき」

2 地域における子どもの読書活動の推進

(1) 図書館における取組

【取組内容】

- 講演会やおはなし会等の充実
- 図書の実質
- 団体貸出の充実
- ホームページを活用した情報発信

【取組状況】

- おはなし会や講演会、各種講座を開催しました。
 - ・ おはなし会：第一次計画期間内に1,617回実施し、13,928人参加
 - ・ 読み聞かせ講座：学校図書館ボランティアなど本の読み聞かせをする人を対象に、図書館司書が講師となった研修会「読み聞かせ講座」を実施し、年間延べ100人程度参加
- 図書館を気軽に利用できるようにさまざまな事業を実施するなど、子どもの本の貸出冊数の増加に取り組み、個人貸出冊数では、子どもの登録者数の減少に対し貸出冊数全体に対する子どもの本の貸出冊数の割合を維持するとともに、子ども一人当たりの児童書貸出冊数が増加しました。

・ 個人貸出冊数

〔福山市図書館における個人貸出冊数〕

(単位：冊)

項目	2010年度 (平成22年度) a	2014年度 (平成26年度) b	比較増減 b/a
総貸出冊数	3,408,900	3,383,752	99.3%
うち児童書	1,100,428	1,113,819	101.2%
児童書の率	32.3%	32.9%	
子ども一人当たり 児童書貸出冊数	15.4	15.8	102.6%

〔2015年度(平成27年度) 総貸出冊数：3,369,468
うち児童書：1,128,535 児童書の率：33.5%
子ども一人当たり児童書貸出冊数：16.1〕

- ・団体への貸出（団体貸出（注3）及びセット貸出（注4））冊数

[福山市図書館における団体への貸出冊数]

(単位：冊)

項目	2010年度 (平成22年度) a	2014年度 (平成26年度) b	比較増減 b/a
貸出冊数	46,247	57,530	124.4%

[2015年度(平成27年度) 貸出冊数：56,847]

●図書館による図書の刊行に取り組みました。

- ・2冊の出版物を刊行

「司書おすすめブックリスト 小学生版 『ようこそ本の森へ』」

2013年(平成25年)福山市中央図書館 刊

「ラッキー!ラッキー!」カザ敬子 文・絵

2014年(平成26年)福山市中央図書館 刊

(国際ソロプチミスト福山からの寄附を受け、福山ゆかりの絵本作家
カザ敬子さんの英語の絵本を翻訳出版)

ブックリスト
『ようこそ本の森へ』



『ラッキー!ラッキー!』
カザ敬子 文・絵

●広報活動による情報発信に取り組みました。

- ・インターネットによる広報活動
- ・図書館ホームページによる対象年代別ブックリストの掲示
- ・おはなし会などの情報提供
- ・学校など団体への図書の貸出しや図書館見学，学校や地域に出向いての講演などの情報提供

注3 団体貸出(全図書館で実施)：個人貸出とは別に、施設や団体等に250冊以内の本を貸し出す事業。通常の書架にある図書の中から申請団体自らが選択したものを貸し出している。

注4 セット貸出(中央図書館のみ実施)：1セット40冊以内の子どもの本を、学校または学級単位に貸し出す事業。セット貸出専用書架にある図書を申請団体の要望や指定されたテーマに沿うように司書が選書し、セットにして貸し出している。

- 多様な図書資料の収集に取り組みました。

・限られた財源を有効に活用する中での、子どもの発達段階に応じた良質な図書の選択・収集

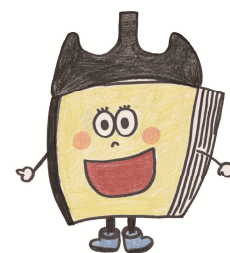
[福山市図書館における蔵書数]

(単位:冊)

項目	2010年度 (平成22年度) a	2014年度 (平成26年度) b	比較増減 b/a
総蔵書数	946,444	1,092,698	115.5%
うち児童書	236,205	266,734	112.9%
うちヤング書(注5)	30,315	34,973	115.4%
うち外国語資料	5,495	5,847	106.4%
うち点字資料	2,729	2,831	103.7%

2015年度(平成27年度) 総蔵書数: 1,118,456
 うち児童書: 271,229 うちヤング書: 39,494
 うち外国語資料: 5,908 うち点字資料: 2,843

- 学校図書館ボランティアを中心とした「図書ボランティアの会」の研修会で、図書館司書が講師を行うなど、連携の強化に取り組みました。
- 子ども向けの図書館だより「よんで・よんで」, 「CHUOU Young 通信」の大型版を各小中学校に毎月配布しています。
- 2014年度(平成26年度)に、子ども議会の提案を受け図書館キャラクターを小・中学生から募集し、2,681点という多くの応募作品の中から、福山市図書館キャラクター「としよ子」が選定されました。「としよ子」は、「図書館だより」等への掲出のほか、各種PR活動に掲出されており、図書館を身近に感じてもらうことで図書館の利用を促し、本に親しむきっかけづくりに役立っています。
- 「エフエムふくやま」へのラジオ出演などのさまざまな広報活動を継続しています。



福山市図書館キャラクター
「としよ子」

注5 ヤング書: 12歳から18歳のヤングアダルト世代が親しみやすい資料を、ヤング書として整理している。

- 放課後子ども教室の情報紙「げんき情報局」には、図書館司書による図書紹介の掲載を継続して実施しています。
- 国の定めた「子ども読書の日」（4月23日）や、「古典の日」（11月1日）において、図書館等でさまざまなイベントを開催しています。

【成果】

良質な新刊児童書の収集、提供を行うとともに、子どもの発達段階に応じた読書推進のための情報の提供を図り、年齢等を考慮した読書環境を整備するとともに、おはなし会等のイベントの実施、ブックリストの配布などの情報発信などを充実することで、子ども一人当たりの本の貸出冊数の増が図られました。

図書館や関係部局が連携し、家庭と地域、学校等が連携、協力することで、子どもの読書活動の推進が図られてきています。また、親しみやすくわかりやすい広報活動の取組が進んでいます。

【課題】

子どもの本の貸出冊数の増に向け、資料のさらなる充実が必要です。あわせて、障がいの有無に関わらず読書を楽しむことのできる環境の整備や、外国語を母語とする子どもの読書環境の整備、多文化への理解の促進を図るなど、誰もが図書館を気軽に利用できるための取組の一層の充実が必要です。

また、家庭と地域、学校等の連携の強化に向け、保護者等への啓発やボランティア研修会をさらに充実していく取組が必要です。



(2) 公民館等における取組

【取組内容】

- おはなし会などの行事の充実
- 広報活動の充実
- 図書ボランティアの育成・支援
- 読書活動の支援

【取組状況】

- 公民館，コミュニティセンター・館では，全94館のうち65，9%にあたる62館が図書の貸出しを実施しました。
- 公民館，コミュニティセンター・館の主催行事として，おはなし会の開催や本の選び方，読み聞かせの方法を学ぶ講座などを実施しました。
- ボランティアにより，読み聞かせ活動を実施しました。
 - ・地域での読み聞かせ支援 11館
 - ・学校での読み聞かせ支援 4館
- 手城公民館を拠点とした制作委員会により，絵本「ゆうちゃん
とまほうのばら～ばらのまち福山～」を発売しました。
- 福山市自然研修センター「ふくやまふれ愛ランド」において，
大学生ボランティアによる絵本の読み聞かせを実施しました。
- 商業施設との連携による「えーほんd eまち歩き（注6）」事業を実施しました。



『ゆうちゃんとまほうのばら
～ばらのまち福山～』

【成果】

公民館等において図書の貸出しや絵本の読み聞かせを実施し，読書の大切さや意義について保護者等に対し普及啓発に努めるとともに，ボランティアと連携する中で，子どもの読書支援を推進しました。

【課題】

公民館等において図書の貸出しやおはなし会等の運営に携わっているボランティアの育成やボランティア団体等との協働の一層の推進が必要です。

注6 えーほんd eまち歩き：中心市街地活性化及び読書推進の視点から，福山駅周辺にある施設で「えーほん（本）」をキーワードに，本でまちと人をつなげるイベント。ふくやま美術館前広場での「一箱古本市」やエフピコR i Mでのおはなし会，アイネスフクヤマでのお薦め本のポップ（本の紹介カード）展示などを開催。

3 学校等における子どもの読書活動の推進

(1) 保育所（園）・幼稚園等における取組

【取組内容】

- 保育所（園）・幼稚園等の読書活動の支援
- 子どもの読書について保護者等への啓発

【取組状況】

- 福山市立大学附属幼稚園では、毎週木曜日の朝、保護者等による読み聞かせを実施しました。その他の幼稚園等においても、絵本の読み聞かせや、移動図書館車の活用など、創意工夫し、読書の推進や保護者等への啓発を実施しました。
- 保育所においては、図書館からの団体貸出を利用して、家庭における読み聞かせを推進するとともに、ボランティアの会による読み聞かせを実施しました。

【成果】

絵本の読み聞かせや家庭への貸出し、ボランティアによる読み聞かせなど、就学前施設と家庭、地域、図書館、読書サークルなどが連携し、子どもの読書推進に取り組みました。

【課題】

発達段階に応じた資料の充実を図るとともに、家庭での読み聞かせの重要性について、保護者等へのさらなる啓発の取組が必要です。



(2) 学校における取組

【取組内容】

- 「本を読むきっかけ」の充実

【取組状況】

- 学校図書館図書標準（注7）を基本に学校図書館の充実に向け取り組みました。

（単位：％）

項目		2010年度 （平成22年度）a	2014年度 （平成26年度）b	比較増減 b-a
学校図書館図書標準 の充足率	小学校	123.1	127.9	4.8
	中学校	118.2	122.3	4.1

[2015年度（平成27年度） 学校図書館図書標準の充足率 小学校：128.8 中学校：120.9]

- 「本を読むきっかけ」の充実に取り組みました。
 - ・朝の読書活動の推進
 - ・学校での読書活動で図書館の団体貸出を利用
 - ・社会見学において図書館を訪問
 - ・関係機関との連携や、学校図書館ボランティアの活用による地域との連携の推進



注7 学校図書館図書標準：公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、1994年（平成5年）に旧文部省が定めたもので、学級数に応じて計算される蔵書数の標準

【成果】

児童・生徒の学習や生活面での基礎となる「ことばの力」を養い、意欲的な学習活動や読書活動を支援するため、学校図書館の充実や朝の時間帯における読書活動の実施等、本を読むきっかけの充実に取り組み、「本を読むのが好き」な児童・生徒の割合が増加しました。

【課題】

学校におけるさまざまな取組により、学校での「ことばの力」を身に付けさせる取組が定着しつつある一方、学年が進むにつれて子どもたちが読書をしなくなる傾向が続いています。とりわけ、子どもたちが家庭で本を読む時間が減少傾向にあるなどの課題があり、今後もPTAや保護者、地域などと連携する中で、継続的な取組が必要です。

広島県「基礎・基本」定着状況調査結果（福山市立学校の状況）

「本を読むのが好き」な児童・生徒の割合 (単位：%)

調査対象	2010年度 (平成22年度) a	2014年度 (平成26年度) b	比較増減 b-a
小学校5年生	77.0 (78.8)	81.5 (80.8)	4.5 (2.0)
中学校2年生	70.5 (71.1)	73.2 (72.2)	2.7 (1.1)

()内は広島県平均値

[2015年度(平成27年度) 小学校5年生：82.2 中学校2年生：74.8]

「一週間、家庭で読書をしない」児童・生徒の割合 (単位：%)

調査対象	2010年度 (平成22年度) a	2014年度 (平成26年度) b	比較増減 b-a
小学校5年生	16.5 (17.7)	15.6 (17.0)	△0.9 (△0.7)
中学校2年生	35.6 (34.6)	35.6 (35.4)	0.0 (0.8)

()内は広島県平均値

[2015年度(平成27年度) 小学校5年生：18.0 中学校2年生：32.6]

第3章 第二次計画の策定

1 基本的な考え方

(1) 計画の目標

「子どものそばに いつも 本を」

家庭，地域，学校等が連携し，読書環境の整備を進め，子どもたちが自主的に本を読みたいという状況を作り出すことで，子どもたちにとって本が日々の生活の中で欠かせない存在となることを目標とします。

(2) 基本方針

- ア 子どもの読書環境の整備を図ります。
- イ 子どもの自主的な読書活動を支援します。
- ウ 子どもの読書活動の意義の普及に努めます。

(3) 計画の位置づけ

この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づく市町村子ども読書活動推進計画であり，計画の策定に当たっては，国の「(第三次)子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「広島県子供の読書活動推進計画(第三次)ーことばの力を育てる読書活動をめざしてー」を踏まえました。

(4) 計画期間

計画策定時から2021年度(平成33年度)までとします。

2 施策体系

区分	計画の柱立て 主な取組	基本方針			4 関係機関の連携・協力の推進										
		① 読書環境の整備	② 読書活動の自主的な支援	③ 読書活動の普及	◎：主管課					○：連携課					
					健康推進課	保育課	子育てセンター	子育て支援課	生涯学習課	青少年課	図書館	指導課	福山市立高等学校	ボランティア団体等	
1 家庭	●保護者等へのまなびの場や情報の提供による啓発の推進														
	こんにちは赤ちゃん訪問事業の実施	◆	◆	◆	◎						○				○
	絵本と出会うふれあい事業の実施	◆	◆	◆	◎						○				
	子育て講座「絵本の読み聞かせ」の実施		◆	◆			◎				○				○
2 地域	●子どもが読書に親しむ機会の提供														
	おはなし会の開催（あかちゃんといっしょのおはなし会ほか）	◆	◆								◎				
	児童書貸出しの充実（読書通帳の配布など）	◆	◆								◎				
	中学生、高校生向け講座の実施		◆								◎	○	○		
	学校や保育所等へのブックトーク等の講師派遣		◆	◆		○					◎	○	○		
	図書館見学の受入れ		◆	◆		○					◎	○			
	職場体験・インターンシップの受入れ		◆	◆							◎	○			
	司書おすすめ各種ブックリストの作成・配布		◆	◆							◎				
	●図書資料等の整備・充実														
	多様な図書資料の収集	◆									◎				
	学校や公民館等への図書の団体貸出の実施	◆					○		○	○	◎	○			○
	移動図書館の巡回	◆								○	◎	○			
	●ボランティア団体等との連携														
	ボランティア等を対象とした「読み聞かせ講座」の実施		◆				○					◎	○		○
	ボランティア団体等との連携（おはなし会の実施など）		◆									◎			○
	●保護者等へのまなびの場や情報の提供による啓発の推進														
	「図書館だより」等の作成・配布			◆								◎	○		
	インターネットやSNS等を利用した広報活動			◆								◎			
●子どもが読書に親しむ機会の提供															
公民館主催講座（絵本の読み聞かせや出前講座）の実施	◆	◆							◎		○			○	
コミュニティセンター・館における子育て交流事業による読書活動	◆	◆							◎					○	
ふれ愛ひろば「お楽しみDay」（ふくやまふれ愛うた）の開催	◆	◆								◎				○	
放課後子ども教室における読書活動	◆	◆								◎				○	
●図書資料等の整備・充実															
図書館からの団体貸出を利用した図書の整備・充実	◆	◆								◎	○				
●ボランティア団体等との連携															
ボランティアの育成や組織化などの促進	◆	◆								◎	○			○	
●保護者等へのまなびの場や情報の提供による啓発の推進															
地域住民への学習情報紙の発行による情報発信			◆							◎	○				
3 学校等	●子どもが読書に親しむ機会の提供														
	絵本の読み聞かせ活動	◆	◆	◆		◎					○	◎			○
	家庭への絵本の貸出し	◆	◆	◆		◎						◎			
	●図書資料等の整備・充実														
	保育室等への絵本コーナーの設置・充実	◆	◆				◎					◎			
	図書館からの団体貸出を利用した図書の整備・充実	◆	◆				◎				○	◎			
	●ボランティア団体等との連携														
	ボランティア団体等との連携（読み聞かせなど）	◆	◆				◎					◎			○
	●保護者等へのまなびの場や情報の提供による啓発の推進														
	保護者会などの機会を利用した情報提供や啓発			◆			◎					○	◎		
	●子どもが読書に親しむ機会の提供														
	全校一斉読書活動の推進		◆										◎	◎	
	本の読み聞かせの実施		◆						◎				◎		○
	推薦図書や必読書の選定	◆	◆										◎	◎	
	生き方を考え表現する機会の充実（読書感想文コンクール等への応募）		◆										◎	◎	
	「子ども司書」養成講座の実施		◆	◆								○	◎		
	公共図書館との連携（ブックトーク、図書館見学など）	◆	◆									○	◎	◎	
	（高校）イベントを通じた読書活動啓発（読書マラソンの開催）		◆											◎	
（高校）「仕事」についてのブックトークの実施		◆									○		◎		
（高校）ビブリオバトルの開催		◆											◎		
●図書資料等の整備・充実															
学校図書館図書情報のデータベース化の推進	◆											◎	◎		
図書資料の維持、調べ学習のための資料の充実	◆										○	◎	◎		
図書館からの団体貸出を利用した図書の整備・充実	◆	◆						◎			○	◎			
●ボランティア団体等との連携															
ボランティア団体等との連携（本の整理、貸出など）		◆	◆									◎	◎	○	
●保護者等へのまなびの場や情報の提供による啓発の推進															
「学校だより」などでの家庭読書のすすめ		◆	◆								○	◎	◎		
PTAや子ども会等、子どもをとりまく団体と連携しての読書推進		◆	◆								○	◎	◎		

3 計画の柱立てと取組内容

(1) 家庭における子どもの読書活動の推進

家庭は、子どもの成長にとって最も大切な場所です。子どもにとっての読書は、乳児期のことばの体験（ことばの獲得）から始まります。子どもが読書習慣を身に付けるうえでは、日常の家庭における家族のふれあいや読書体験をはじめとするさまざまな体験は大きな役割を果たします。

読書が日常生活の中で継続して行われるためには、保護者等が配慮し率先して子どもの読書活動の機会の充実や読書活動の習慣化に取り組むことが大切です。

読み聞かせや子どもと一緒に本を読む時間を設けること、図書館に出向くこと、子どもの身の回りに興味や関心を引く本があることなど、本と出会う環境づくりに努めることは、子どもが成長する過程で、想像力を豊かにし、表現力、思考力、創造力を養うなど、テレビやゲームからは得られない大きな効果があります。

とりわけ乳幼児期における語りかけや絵本を通してのふれあいは、親子の精神的な絆を強めるとともに、家庭での読書活動の礎になります。小・中学生、高校生においては、身近な存在である保護者が子どもとともに読書に親しみ、本について話し合い、読書の楽しさや喜びを分かち合うことにより、子どもの自主的な読書活動につなげ、生涯にわたる読書習慣が身に付くようにすることが大切です。

【柱立て①】

●保護者等へのまなびの場や情報の提供による啓発の推進

家庭での読書活動の大切さへの理解を深めるため、読み聞かせにふさわしい「おすすめ絵本リスト」を配布するほか、妊婦、乳幼児の保護者等への絵本の紹介や保護者等への講座を実施します。あわせて、さまざまな機会をとらえて絵本を介した親子のふれあいの大切さについて周知を図ります。

(主な取組)

- ◇こんにちは赤ちゃん訪問事業の実施
- ◇絵本と出会うふれあい事業の実施
- ◇子育て講座「絵本の読み聞かせ」の実施

(数値目標)

◇こんにちは赤ちゃん訪問事業における啓発活動の実施

[家庭訪問時に小冊子などによる読書活動の啓発]

項目	2015年度 (平成27年度)	2021年度 (平成33年度)
訪問家庭に対する啓発	100% (3,958 家庭)	<u>100%</u>



子育て講座「絵本の読み聞かせ」風景

(2) 地域における子どもの読書活動の推進

① 図書館における取組

図書館は、子どもが本と出会い、さまざまな読書体験ができるよう司書によって選び抜かれた蔵書を備えており、子どもが豊富な蔵書の中から読みたい本を自由に選び、読書の楽しさを知ることができる場所です。

また、保護者等にとっても、子どもに読ませたい本を自由に選んだり、司書に読書相談したりすることができる場所です。

さらに、おはなし会や本の展示等の実施、本の紹介リストの作成・配布や、子どもの読書活動を推進する団体やボランティアの活動支援などにも取り組むなど、地域における子どもの読書活動を推進するうえで重要な役割を担っています。

【柱立て①】

●子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもたちが心豊かに、また、生きる力につながる読書活動を行うことができるよう、ボランティアとの協働により各図書館等で開催しているおはなし会などの行事を充実します。

また、読書活動が減少する傾向にある青少年（中学生・高校生）の世代に対して、本や読書に興味・関心を持ち、目的や必要に応じた読書活動を進めることができるよう支援を行います。

（主な取組）

◇おはなし会の開催

あかちゃんといっしょのおはなし会、毎日のおはなし会、季節のおはなし会、手話で語るおはなし会、英語のおはなし会など

◇児童書貸出しの充実（読書通帳の配布など）

◇中学生、高校生向け講座の実施

◇学校や保育所等へのブックトーク等の講師派遣

◇図書館見学の受入れ

◇職場体験・インターンシップの受入れ

◇司書おすすめ各種ブックリストの作成・配布

（数値目標）

◇児童書貸出しの充実

[福山市図書館における子ども一人当たり貸出冊数]

項 目	2015 年度 (平成 27 年度)	2021 年度 (平成 33 年度)
貸出冊数	16.1 冊	<u>17冊</u>

【柱立て②】

●図書資料等の整備・充実

子どもの発達段階に応じて、子どもの知的感性・感情的経験を広げ、豊かな想像力を養うことができるような良質な図書を選択・収集し、その提供に努めます。

また、障がいのある子どもや外国語を母語とする子ども、その他配慮が必要な子どもを含め、すべての子どもが利用しやすい読書環境の充実を図ります。

（主な取組）

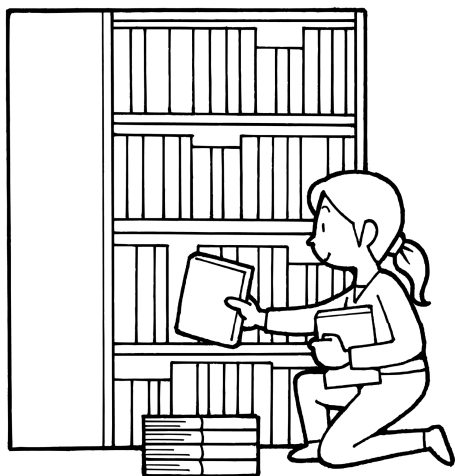
- ◇多様な図書資料の収集
- ◇学校や公民館等への図書の団体貸出の実施
- ◇移動図書館の巡回

（数値目標）

- ◇多様な図書資料の収集（外国語資料，点字資料）

[福山市図書館における蔵書数（外国語資料，点字資料）]

項 目	2015 年度 (平成 27 年度)	2021 年度 (平成 33 年度)
外国語資料	5,908 冊	<u>6,200 冊</u>
点字資料	2,843 冊	<u>3,000 冊</u>



【柱立て③】

●ボランティア団体等との連携

学校や家庭，地域等で読み聞かせをする人を対象とした「読み聞かせ講座」を開催し，子どもの読書活動を推進するボランティアの人材育成に取り組みます。さらに，新たな取組として，ボランティアのスキルアップのための研修会「読み聞かせ講座（上級編）」を実施し，物語を語って聞かせるストーリーテリングの技術や，選書に必要な知識の習得などの向上を目指します。

（主な取組）

◇ボランティア等を対象とした「読み聞かせ講座」の実施

◇ボランティア団体等との連携（おはなし会の実施など）



図書館と読み聞かせボランティアの
連携によるおはなし会

【柱立て④】

●保護者等へのまなびの場や情報の提供による啓発の推進

おはなし会等の実施を通じて，絵本を介した親子のふれあいの大切さについて周知・普及を図ります。また，図書館で実施している事業や子どもの読書活動の推進に関する情報を収集し，多くの市民が容易に活用できるよう，広報紙やホームページなど，さまざまな媒体を用いた情報提供を行います。

（主な取組）

◇「図書館だより」等の作成・配布

◇インターネットやSNS（注8）等を利用した広報活動

注8 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）：インターネット上の交流をとおして社会的なつながりを持つことができるサービスやウェブサイトの総称。Facebook（フェイスブック），Twitter（ツイッター）など。

② 公民館等における取組

公民館図書室や地域文庫は、地域の中で本に接することができ、保護者同士の交流や学習の機会を提供することで、地域に密着した読書活動を推進することができます。地域で開かれるおはなし会などの行事に参加することによって、子どもは読書の喜びを分かち合う友だちや、本の楽しさを教えてくれる人に出会うこともあります。

【柱立て①】

●子どもが読書に親しむ機会の提供

地域の読み聞かせグループ等により子どもの発達段階に応じたおはなし会等を開催するとともに、子どもの読書活動推進に大きな影響力を持つ保護者等へのまなびの場の提供や、公民館だより等を利用した情報提供にも取り組みます。

（主な取組）

- ◇公民館の主催講座としてボランティアによる「絵本の読み聞かせ」や『『親の力』をまなびあう学習プログラム』を活用した出前講座の実施
- ◇コミュニティセンター・館における子育て交流事業（ボランティアによる絵本の読み聞かせや布絵本作りなど）による読書活動の推進
- ◇福山市自然研修センター「ふくやまふれ愛ランド」にて開催される、ふれ愛ひろば「お楽しみDay」（子育て支援事業）の実施
- ◇放課後子ども教室における読み聞かせ等の読書活動の推進

（数値目標）

- ◇公民館の主催講座としてボランティアによる「絵本の読み聞かせ」や『『親の力』をまなびあう学習プログラム』を活用した出前講座の実施
[公民館の主催講座の実施]

項目	2015年度 (平成27年度)	2021年度 (平成33年度)
実施箇所	14館	20館

◇コミュニティセンター・館における子育て交流事業（ボランティアによる絵本の読み聞かせや布絵本作りなど）による読書活動の推進

[子育て交流事業による読書活動]

項 目	2015 年度 (平成 27 年度)	2021 年度 (平成 33 年度)
実施箇所	4 館	<u>10 館</u>

◇放課後子ども教室における読み聞かせ等の読書活動の推進

[放課後子ども教室における読書活動（小学校図書室，公民館図書室など）]

項 目	2015 年度 (平成 27 年度)	2021 年度 (平成 33 年度)
実施箇所	22 教室	<u>30 教室</u>



(川口公民館)



(深津公民館)

講座「『親の力』をまなびあう学習プログラム」

【柱立て②】

- 図書資料等の整備・充実

（主な取組）

◇ 図書館からの団体貸出を利用した図書の整備・充実

【柱立て③】

- ボランティア団体等との連携

（主な取組）

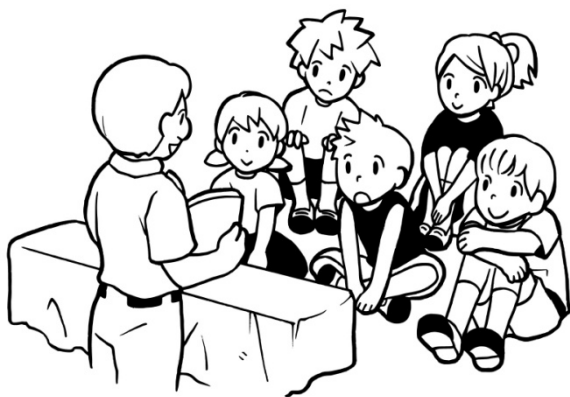
◇ 地域住民によるサークル活動（公民館，コミュニティセンター・館）において図書や読書に関する活動を行うボランティアの育成と組織化，ネットワーク化の促進

【柱立て④】

- 保護者等へのまなびの場や情報の提供による啓発の推進

（主な取組）

◇ 地域住民に対して，絵本の読み聞かせなどの講座の開催や，公民館図書室の文庫活動を紹介する，各生涯学習センター発行の学習情報紙等による情報発信の実施



(3) 学校等における子どもの読書活動の推進

① 保育所（園）・幼稚園・認定こども園等における取組

乳幼児期は、絵本や物語に出会い、言葉をはじめとした様々な知識や知恵を学び、感性や情緒、さらに想像力、表現力、思考力、創造力などを養い、生命の大切さや人を大切にするなど、より豊かな人間性を育む第一歩となる重要な時期です。保育所（園）・幼稚園・認定こども園などは、地域の未就園児も含めて乳幼児が絵本や物語に親しむ活動を充実させる役割を担っています。発達段階に応じた本との出会いは、子どもたちの多様な興味や好奇心を刺激し、想像力や考える力と言語を育てます。

【柱立て①】

- 子どもが読書に親しむ機会の提供

（主な取組）

- ◇絵本の読み聞かせ活動
- ◇家庭への絵本の貸出し

【柱立て②】

- 図書資料等の整備・充実

（主な取組）

- ◇保育室等への絵本コーナーの設置・充実
- ◇図書館からの団体貸出を利用した図書の整備・充実

【柱立て③】

- ボランティア団体等との連携

（主な取組）

- ◇福山市立大学図書館の職員や大学生、地域のボランティアとの連携による絵本の読み聞かせの実施

【柱立て④】

- 保護者等へのまなびの場や情報の提供による啓発の推進

（主な取組）

- ◇保護者会などの機会を利用した情報提供や啓発

② 学校等における取組

学齢期は、子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していく時期です。子どもが多く時間を過ごす学校では、子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができるような環境を整備し、適切な支援を行う必要があります。また、学校は各教科等の学習を通じて、発達段階に応じた体系的な読書活動を充実させ、読書の量を増やすことのみならず、読書の質を高めていく役割を担っています。

【柱立て①】

●子どもが読書に親しむ機会の提供

児童・生徒が目的に応じて本を選んで読んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすることが重視されていることから、様々な文章や資料を読んだり調べたりするなど、多様な読書活動を推進する必要があります。

また、国語の授業においては、本や文章を読んで考えたことをまとめたり、友達と話し合ったりする学習をとおして、自分の考えを広げたり深めたりしています。

こうした学習を進めていくために、読んだ本を紹介したり、読書感想文コンクール等に参加したりすることを奨励します。

(主な取組)

- ◇全校一斉読書活動の推進
- ◇本の読み聞かせの実施
- ◇推薦図書や必読書の選定
- ◇生き方を考え表現する機会の充実（読書感想文コンクール等への応募）
- ◇「子ども司書」養成講座の実施
- ◇公共図書館との連携（ブックトーク、図書館見学など）
- ◇（高校）イベントを通じた読書活動啓発（読書マラソンの開催）
- ◇（高校）「仕事」についてのブックトークの実施
- ◇（高校）ビブリオバトル（注9）の開催

注9 ビブリオバトル：お気に入りの本を持ち寄って、その面白さについて5分程度でプレゼンテーションし、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で決定する書評イベント

(数値目標)

- ◇全校一斉読書活動の推進
- ◇推薦図書や必読書の選定
- ◇生き方を考え表現する機会の充実（読書感想文コンクール等への応募）

[福山市立学校における現状と目標]

(小学校：77校，中学校：35校)

項目		2015年 (平成27年度)	2021年度 (平成33年度)
全校一斉読書活動を実施している学校の割合	小学校	100%	<u>100%</u>
	中学校	97%	<u>100%</u>
推薦図書や必読書の選定を行っている学校の割合	小学校	70%	<u>100%</u>
	中学校	74%	<u>100%</u>
読書感想文コンクール等への応募を行っている学校の割合	小学校	75%	<u>90%</u>
	中学校	74%	<u>90%</u>

2015年度（平成27年度）の数値：2016年度（平成28年度）読書活動に関する基礎調査から



ビブリオバトルの風景（福山市立福山高等学校）

【柱立て②】

●図書資料等の整備・充実

児童・生徒の学習や生活面での基盤となる「ことばの力」の獲得や、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を支え、豊かな読書活動の機会を充実していくためには、児童・生徒の知的欲求を増進し、さまざまな興味や関心に応える魅力的な学校図書館の資料を、学校図書館図書標準を基準に整備充実させるなど、学校図書館の運営の充実が必要となります。

（主な取組）

- ◇学校図書館図書情報のデータベース化の推進
- ◇図書資料の維持，調べ学習のための資料の充実
- ◇図書館からの団体貸出を利用した図書の整備・充実

（数値目標）

- ◇学校図書館図書情報のデータベース化の推進

[福山市立学校における現状と目標]

(小学校：77校，中学校：35校)

項 目		2015年 (平成27年度)	2021年度 (平成33年度)
学校図書館図書情報のデータベース化を実施している学校の割合	小学校	56%	<u>70%</u>
	中学校	60%	<u>70%</u>

2015年度（平成27年度）の数値：2016年度（平成28年度）学校図書館の現状に関する調査から

- ◇図書資料の維持，調べ学習のための資料の充実

[福山市立学校における現状と目標]

(小学校：77校，中学校：35校)

項 目		2015年 (平成27年度)	2021年度 (平成33年度)
百科事典や図鑑などを配備している学校の割合	小学校	90%	<u>95%</u>
	中学校	86%	<u>95%</u>

2015年度（平成27年度）の数値：2016年度（平成28年度）読書活動に関する基礎調査から

【柱立て③】

●ボランティア団体等との連携

子どもの読書に関心がある人により構成されているボランティア団体等によって、さまざまな場で子どもの読書活動を推進する取組が行われています。こうした団体との連携・協力を進めることは、保護者等だけでなく、地域住民にとっても読書活動について理解を深めることにつながります。

（主な取組）

◇ボランティア団体等との連携（本の整理，貸出など）

（数値目標）

◇地域ボランティアとの連携

[本の整理，貸出，読み聞かせ，飾り付け，本の修繕など]（小学校：77校，中学校：35校）

項 目		2015年 (平成27年度)	2021年度 (平成33年度)
地域ボランティアと 連携している学校の割合	小学校	87%	<u>90%</u>
	中学校	40%	<u>70%</u>

2015年度（平成27年度）の数値：2016年度（平成28年度）読書活動に関する基礎調査から

【柱立て④】

●保護者等へのまなびの場や情報の提供による啓発の推進

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、最も身近な存在である保護者等に対して、子どもが読書の時間を持つよう家庭で習慣付けることの重要性について情報提供を行う必要があります。また、PTAや子ども会など、子どもをとりまく団体等と連携しての読書活動を推進するため、さまざまな機会をとらえ、意義についての啓発に取り組みます。

（主な取組）

◇「学校だより」等での家庭読書のすすめ

◇PTAや子ども会など、子どもをとりまく団体等と連携しての読書推進

(4) 関係機関の連携・協力の推進

子どもの読書活動を推進していくためには、子どもにかかわる家庭、地域、学校等それぞれが役割を果たし、社会全体で子どもの自主的な読書活動の推進を図る取組を広げていくとともに、関係機関が密接に連携し、相互に協力を図って取組を充実させていくことが重要です。

(主な取組)

- ◇子育て講座「絵本の読み聞かせ」の開催
- ◇図書館資料の団体貸出の充実
- ◇図書館と学校図書館との連携
- ◇ふくやま文学館等の文化施設との連携 など

(数値目標)

- ◇図書館と学校図書館との連携

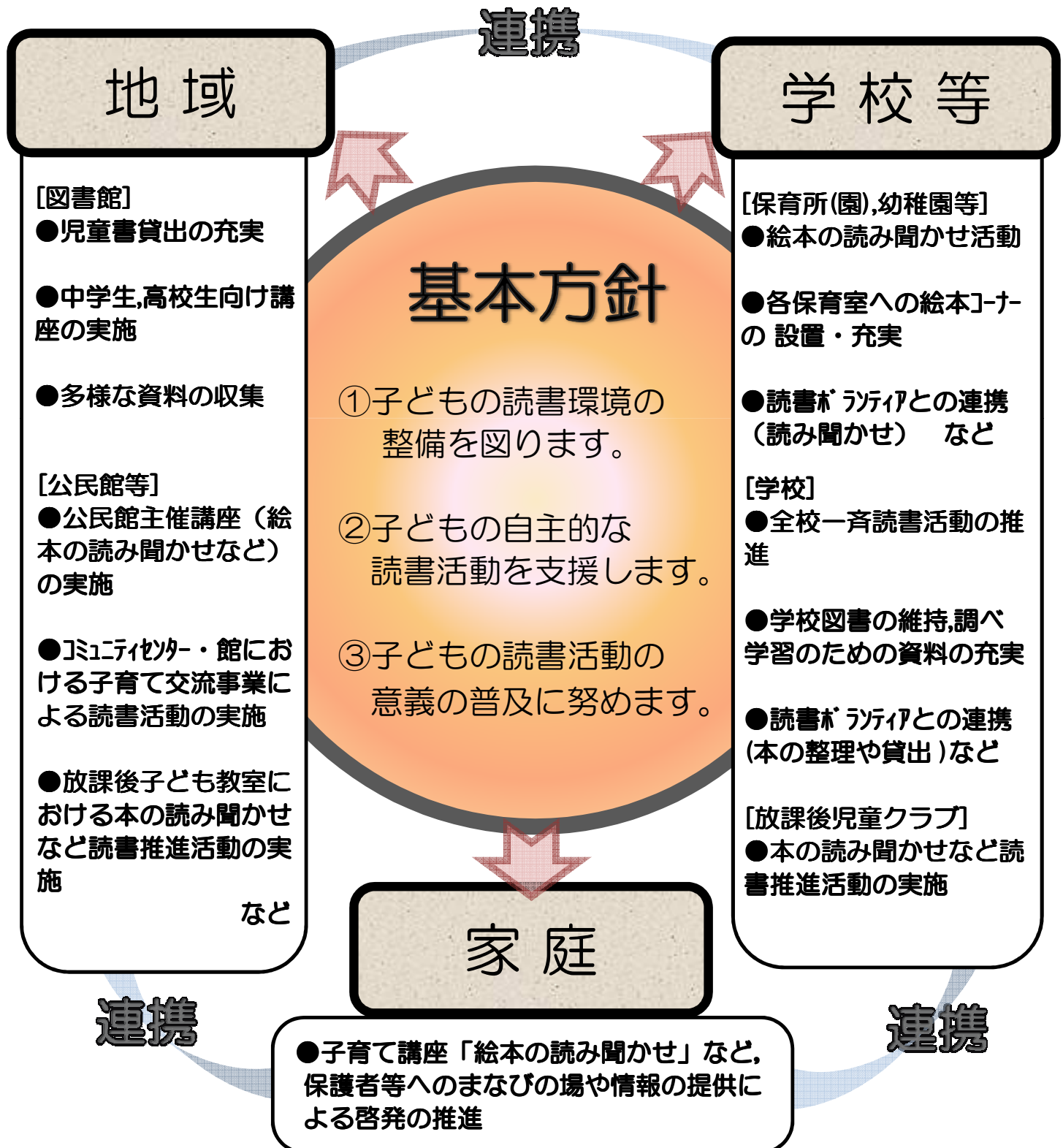
[学校への貸出，司書等の学校訪問など] (小学校：77校，中学校：35校)

項目		2015年 (平成27年度)	2021年度 (平成33年度)
図書館と連携している学校図書館の割合	小学校	43%	<u>60%</u>
	中学校	17%	<u>50%</u>

2015年度(平成27年度)の数値：2016年度(平成28年度)読書活動に関する基礎調査から



～ 子どものそばに
いつも 本を～





祝
福山市
100周年

名 称	福山市子ども読書活動推進計画（第二次） 子どものそばに いつも 本を
主管課	福山市教育委員会管理部中央図書館
所在地	〒720-0812 福山市霞町一丁目10番1号 TEL (084) 932-7222
発行年月	2016年（平成28年）11月